

News

<https://www.jmdp.or.jp/>
<https://www.jmdp-donor-special.jp/>

日本骨髄バンク

検索

●発行2019年12月4日 公益財団法人日本骨髄バンク
 ●発行責任者 小寺良尚(理事長)
 ●編集責任者 五月女忠雄(事務局長)
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19廣瀬第2ビル7F
 TEL 03-5280-8111 FAX 03-5280-0101

CONTENTS

- 1 **骨髄バンクアンバサダー始動!**
 ~初代骨髄バンクアンバサダーは俳優・木下ほうかさん~
- 2 ユースアンバサダー“私たちがつなぐ未来”
- 3 広がるパートナーシップの和 学校編Ⅲ
- 4・5 語りべからのメッセージ 患者さん・ドナーさん体験談
- 6 日本骨髄バンクの現状/数字で見る骨髄バンク子ちゃん
- 7 インフォメーション/ご寄付のお願い
- 8 ドナー登録者の方へのお知らせ

日本骨髄バンクの現状 ※2019年10月末現在

ドナー登録者数
52万6,022人

移植数
23,751例

骨髄バンクアンバサダー始動!

骨髄バンク推進全国大会2019
 in長野 ダイジェスト

~初代骨髄バンクアンバサダーは



俳優 木下ほうかさん~



▲木下ほうかさんと一緒に全国大会を盛り上げた長野のボランティアのみなさん

骨髄バンクアンバサダーとは、「各界でご活躍され、全国的に知名度のある方。若い人たちへの発信力があり、骨髄バンクに深い理解のある方。そして骨髄バンクのPRに積極的にご協力いただける方」をいいます。
 初代骨髄バンクアンバサダーとして、骨髄バンクの提供経験者であり、2017年度ACJジャパン骨髄バンク支援キャンペーンに出演し、俳優として活躍中の木下ほうかさんが就任しました。
 9月21日に世界骨髄バンクドナーデーに合わせ開催された「骨髄バンク推進全国大会2019

祝
 骨髄バンクアンバサダー
 就任セレモニー

骨髄バンクと一般のみなさんをつなぐ親善大使「骨髄バンクアンバサダー」。
 その初代アンバサダーとして、俳優 木下ほうかさんの就任セレモニーが「骨髄バンク推進全国大会2019 in 長野」で行われました。



◀シンポジスト
 右から金子ゆかりさん
 (諏訪市市長)
 小林良清さん
 (長野市保健所所長)
 木下ほうかさん
 (提供経験者代表)



▲シンポジスト
 左から池谷有紗さん(移植経験者代表)
 笠原千夏子さん(骨髄バンク長野 ひまわりの会代表)
 郡司勝己さん(長野朝日放送 報道制作局長)
 竹内純さん(骨髄バンクドナー登録説明員)

「全国大会では、このほか植木俊充先生(長野赤十字病院 血液内科副部長)による医療講演、移植経験者(笠原千夏子さん・提供経験者(遠藤麻衣さん)による講演があり、最後に木下さんを含む7人の方々を迎えて、シンポジウムが行われました。
 タイトルは「ドナー登録者数ワーストからの脱出 戦会議!」。血縁間骨髄移植を経て、自らボランティア団体を立ち上げた笠原千夏子さんのお話を皮切りに、長野県内の自治体やマスコミの地道な取り組みのお話があり、確かな基盤づくりが行われていることが伺えました。そして明るく活発なボランティアのみなさんが、かつてない勢いで行っている活動の様子に、会場は大きな熱気と感動に包まれました。

長野の底力を示した
 シンポジウム

in長野」で就任セレモニーが行われ、木下さんに委嘱状と記念バッチが贈呈されました。これからも若い世代の牽引役としてご協力いただきます。

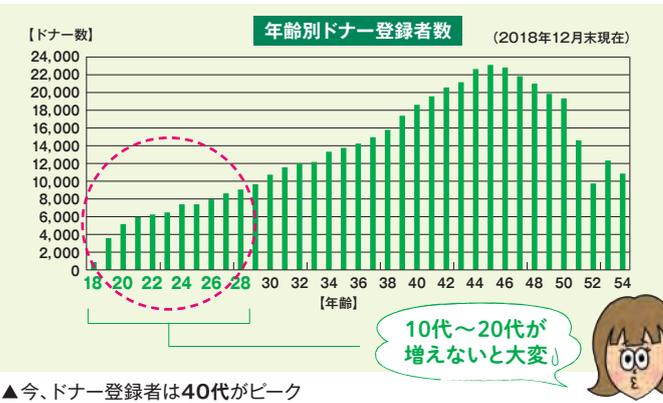


▲木下さんのTwitterでも発信されました!

なぜユースアンバサダーが必要なの？

骨髄バンクのドナー登録者は55歳を迎えると「卒業(登録取消)」となるため、毎年新たなドナー登録者が必要で、現在、ドナー登録者のボリュームゾーンは40〜50代ですが、一方で実際提供に至ったドナーの6割以上を20〜30代が占めています(※6ページ「日本骨髄バンクの現状」もご覧ください)。

若い世代のドナー登録者をこれまでに以上に増やしていくには、若い人たちにもっと骨髄バンクや骨髄・末梢血幹細胞移植について知ってもらわなければならない。そのため啓発や広報活動等に協力するメンバーとして、骨髄バンクユースアンバサダーが結成されました。現在7人のメンバーを中心に楽しく活動しています。



▲今、ドナー登録者は40代がピーク

10代〜20代が増えないと大変



▲東京モーターショーでドナー登録会



▲(公社)東京青年会議所練馬区委員会主催の「Me-病!?発見フェスティバル」で骨髄バンクをPR



▲産業能率大学でドナー登録会

ドナー登録会での登録受付説明員の活動に加え、メンバーの母校や在籍校において、講演会等による広報活動を行っています。また、PR企画や今後の活動計画を話し合うために、月1回程度のミーティングを行っています。

どんな活動をしているの？



▲メンバーは○印左上から鈴木敦己さん、石井悠太さん、坂野遼太さん、左下から、石井希さん、工藤大奈さん

ユースアンバサダー “私たちがつなぐ未来”

若い世代に骨髄バンクや移植について広く知ってもらうためのプロジェクト「骨髄バンクユースアンバサダー」。10〜20代までの若い人たちが中心となって、新しい骨髄バンクの広報活動を展開しています。

これからの活動目標は？

今後は、メンバー関連の学校に限らず、教育機関で講演やPRイベントを行ったり、SNSを通じてインタビュ動画を配信したり、さまざまな活動を計画しています。活動を通して若い世代のドナー登録者を増やすとともに、ユースアンバサダーメンバーも増やして、将来的には全国規模で活動していきたいと考えています。若い世代を対象に、骨髄バンクの仕組みや血液の病気について考える機会を作ること、患者やドナーへの理解ある社会を目指して活動していきます。

メンバー紹介

どうしてユースアンバサダーになったの？



▲水谷駿介さん(21歳)
大学ではサッカー部に所属

献血ルームでドナー登録の話を知り、骨髄バンクについて調べてみると、若いドナー不足の問題が目にとまりました。自分にもできることがあるのでは？と参加を決めました。SNSなど身近なところから活動を広めていきたいです。

元々献血をしたことがあり、骨髄バンクのことは知っていました。友人がユースアンバサダーになったこともあり、骨髄バンクの広報活動を通して、社会貢献ができると思い参加しました。18歳になったらドナー登録しようと思っています。



▲佐藤袖輝さん(17歳)
鉄道旅行が大好きです！(写真左が佐藤さん。友人でユースアンバサダーの坂野さんと)

ユースアンバサダー募集中！

私たちと一緒に活動しませんか？興味がある方はぜひご連絡ください。

【活動内容】PRイベントやドナー登録会、企画会議の参加、SNSでの広報活動など

【応募要件】首都圏在住の10〜20代の方
学生・社会人は問いません
月1〜2回程度活動できる方

骨髄バンク公式LINEでユースアンバサダーのインタビュー動画をシェアしていきます。ぜひチェックしてくださいね。

★PARTNERSHIP★ 広がりが パートナーシップの和

学校編 Ⅲ



文化祭で考えた
中学生にとっての
「骨髄移植」
品川女子学院



▲綿密な取材力で圧倒

津々の様子
にも興味
「ユースア
ンバスター」
動「ユースア
ンバスター」
わる広報活
い世代が携
的でした。若
様子印象
様子が印象

9月下旬。東京・品川にある品川女子学院中等部の文化祭。3年C組の教室前にこんな看板が。タイトルは「初めてドナーを知った日」に読む話」。

その約1か月前。35度を超える猛暑の中、品川女子学院中等部3年C組の2人の生徒がクラスを代表して日本骨髄バンクを訪問。文化祭に向けての取材です。「移植医療」をテーマにしたクラスの研究発表をしたいとのこと。

「どうやって骨髄移植を進めるのか」「日本と海外では骨髄バンクのあり方は異なるのか」等々、次々に質問が飛んできます。骨髄バンクが始まってからの移植数など客観的な数字をもとに、骨髄移植の現状を緻密に把握していく

研究発表に向け、骨髄バンクを取材



ひとりの生徒さんの感想です

病気や治療がどれだけ辛いものなのか、患者さんにとってドナーさんがどれだけ大切でありがたい存在なのかということがこれ以上はないほどよくわかりました。「明日はもうないかもしれない」という言葉はとても心に響きました。今感じている小さな幸せにも感謝を忘れずに命を大切にしたい。

文化祭で
”第3学年優秀賞”受賞！
文化祭当日、3年C組の展示の前にはたくさんの方の姿がありました。

移植を受けた患者さんの講演会に学ぶ
取材後も骨髄移植についてクラスで話し合い、今度は「実際に骨髄移植を経験した方の話を聞いて、自分たちに何ができるか考えたい」とご要望をいただきました。そこで、移植経験者の池谷有紗さんを3年C組に派遣しました。池谷さんは20代で「急性リンパ性白血病」を発症、骨髄バンクを介して骨髄移植を受けています。発症・移植・回復まで、その時々々の写真も交えながら、自身がどんな状況で、どんなことを考えていたのかを話しました。

生徒たちは、想像を超える闘病の辛さ、患者の立場から語られる移植の現実と当事者である池谷さんの言葉の力に圧倒されていました。



▲池谷さんの講演会に聞き入る3年C組のみなさん



▲文化祭で集まった募金も頂戴しました

協力と、ユースアンバスターの申し込みをいただきました。みなさんの今後の活躍に期待します！

文化祭終了後、生徒さんたちから「文化祭で学んだこと・感じたことがたくさんあったので、今後も継続して骨髄バンクの活動に協力したい」との申し出がありました。さっそく街頭募金の



▲好評を博した研究発表。みんなの力が一つに

大人でさえよく知らない移植医療の現実に、みなさん関心を寄せていました。3年C組からのメッセージが、来場者の心を打ちます。



広島国際大学

広島国際大学、学生の「ドナー公欠制度」導入



▲学生ボランティアグループ「しずく」のみなさん

学生ボランティアグループ「しずく」が骨髄バンクドナー登録会など積極的な活動をしている広島国際大学。2019年10月より、学生がドナー候補となった場合に授業を欠席できる「公欠制度」が正式導入されました。学生がドナー候補者になり検査や入院で授業を欠席しても「欠席」とはならず、成績評価にも影響しないことになります。

「しずく」を指導する富永孝宏先生は、「医療系の大学なので、学生たちの医療ボランティアに対す

る意識が高い一方、欠席できない実習科目が多く、適合しても断る例がありました。今回の制度導入により、これまで以上に多くの学生がドナー登録、骨髄提供に前向きになることを期待しています」と語ります。

「しずく」のメンバーからは、「入院等のために出席できなかった授業についての対応措置が教育機関に広まることで、登録活動が活発になることを期待しています」と喜びの声がありました。



ドナさん体験談

あなたも語りべになりませんか

提供ドナーさん、元患者さんの体験談を募集しています。3回目の手紙も募集中です。全国各地で開催する語りべ講演会にご協力いただける方も大歓迎です。語りべご希望の方は下記までご連絡ください。



こちらから語りべの登録もできます

◆日本骨髄バンク 広報渉外部 / 講演会担当
pr@jmdp.or.jp (TEL 03-5280-1789)



私は沖縄出身であることもあり、「命どう宝」(命こそ宝の言葉を大切に育ってきました。そのため、提供や手術に迷いはありませんでした。)
社会人2年目の私にとって、仕事の調整が難関でした。確認検査までは、自分で仕事を調整して有給休暇を使って臨みました。提供までに7割の有給休暇を使うことになりそうだったので、思い切って会社にサポートを願いました。「図々しいかな」と不安に思いましたが、骨髄提供の大切さを説明し、「誰かの命を救うことができるかもしれない」と訴えると賛同者も増え、ドナー休暇制度を導入してもらうことができました！

そして骨髄提供の日。手術をするイメージができていなかったため、生まれて初めて乗る手術台に心臓がバクバク；すこく緊張しました。麻酔医の方が「BEGIN」の曲を流してくれて、大好きな優しい声に一気に緊張が緩んだのと同時に麻酔がかかり；起きたときには手術は終わっていました。想像以上にあつという間でした。
提供後にD.L.I.(※下段参照のため)の採血の依頼もありましたが、こちらは患者さんの体調を理由に直前で中止になってしまいました。連絡を受けた後

「命どう宝」だからこそ、みんなでつなげましょう！



うえはら ともひろ
上原 友希さん
神奈川県在住(沖縄県出身)

2018年 ドナー登録
2019年 骨髄提供

※DLI(ドナーリンパ球輸注療法)
骨髄・末梢血幹細胞ドナーのリンパ球を全血献血もしくは成分献血と同様の方法で採血し、患者に輸血する治療法。移植後の患者に起きる合併症の一部や白血病再発などに有効とされている。

「患者さんはどうなるのだろう？」ということが頭を横切り、涙があふれてきました。会ったこともない患者さん家族のように心配していた自分に初めて気付かされました。辛い気持ちを抱えきれず友人に話しました。すると、友人が「自分の妹も骨髄移植を受けて今は元気になっていると初めて聞く話をしてくれました。今はショックかもしれないけど、骨髄提供をしても良かった時、患者さんもその家族もすこく勇気をもらったはずだよ！大丈夫！」と、患者家族としての気持ちを話してくれて、すこく気持ちが楽になりました。

骨髄提供後、会社でも自分の体験を話す機会をいただきました。終わった後、社長が声をかけてくれました。「あなたがきっかけで、会社も制度を整えることができました。ありがとうございます。誰かのために悩んで、考え、行動したことが報われた気持ちでした。
今回、私は改めて「命のつながり」を実感しました。骨髄提供は「命をつなぐ方法」のひとつだと思います。自分の体験を伝えることで、また誰かが「命をつなぐひとりに」なってくれたら嬉しく思います。

“いのちを分ける”奇跡が教えてくれたこと



▲大学ではバレーボール部に所属

おくら てつぺい
小倉 鉄平さん
神奈川県在住・大学生

2018年 ドナー登録
2019年 骨髄提供
2019年11月以降、ユースアンバサダーとして活動開始予定

ドナー登録は、献血に抵抗のなかった私にとっては特にハードルの高いものではありませんでした。しかし、大学3年を迎えた2019年4月、ドナー候補者に選ばれたとの通知が。いざドナーになる選択を目の前に突きつけられると、動揺している自分がいまいました。もちろん、登録時の説明内容も、移植の必要性や自分へのリスクも頭では理解していましたが、でも改めて事の重大さを考えるとやっぱり少し怖いと思つたし、簡単に決断はできませんでした。それから悩んだ時間、考えたこと、決断してからの出来事は私にとって人生の財産になりました。
普段意識することのない、いのちについて考える時間が増えました。病床に伏す人たちに思いを馳せ、無菌室から出られない子どもたちの日々を想像しました。突然血液の病と宣告され、日常を取り上げられた人の苦しみがいかに浮かびました。涙が溢れ、自分の幸せに感謝しました。自分で決めた未来を創れる、いくらでもやり直せる、そんな自分を認めてくれる人達がいる。人に恵まれていることに気がつきました。
ドナーになるかどうか迷う自分に寄り添って背中を押してくれた両親や、
ドナーになる選択を讀んで理解してくれる仲間たちがいる。意識なんてなくても当たり前にあつた大きな幸せを、誰かに分けられるチャンスが目の前にある。そんな素晴らしい奇跡に立ち会える。こんな気持ちになつたのは生まれて初めてでした。
「若者のドナー登録が少ない」「ドナー候補に選ばれても仕事や家庭の事情で引き受けられない人がいる」など、骨髄バンクには問題点もたくさんあります。それも少しずつ伝えていかなければなりません。
でも今、私が一番伝えたいのは、「自分の決断で誰かを救える」ということ。そしてそれは間違いなく自分の宝物になるということです。僕のような経験をする人が、一人でも増えることを祈ります。



日本骨髄バンクの現状

非血縁者間骨髄移植および末梢血幹細胞移植の状況

2019年9月末現在

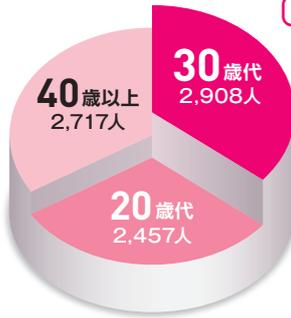
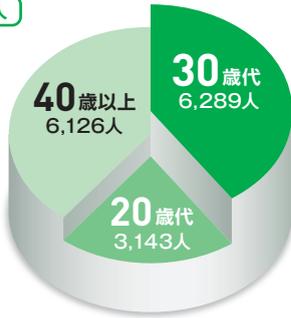
提供者の状況 年齢・男女

23,640件

※採取されたものの移植に至らなかった10例と翌月移植予定の2例が含まれています。

男性 15,558人

女性 8,082人



コーディネート状況

(1992年から2019年9月までの累計)

806,616件

ドナー登録者累計数

315,643件

HLA適合報告ドナー人数

111,997件

確認検査済みドナー人数

27,523件

最終同意面談人数

23,447件

採取実施人数

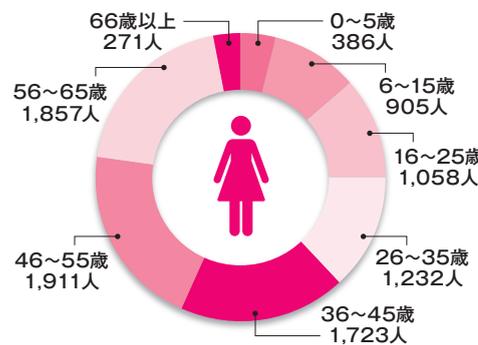
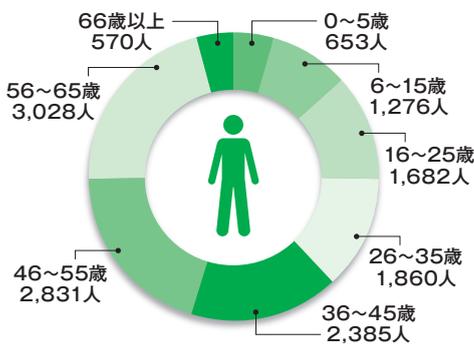
※海外ドナー193人を除いた国内の数

移植患者の状況 年齢・男女

23,628件

男性 14,285人

女性 9,343人

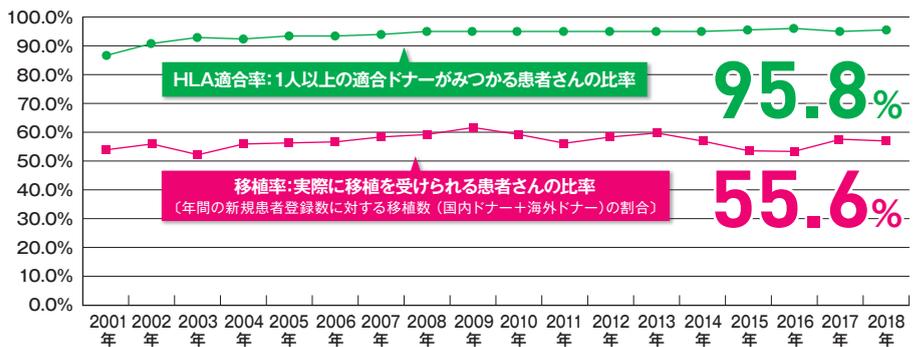


数字で見る骨髄バンク子ちゃん

気になるデータに zoom in

移植を受けられる患者さんの割合は？ (国内の患者さんの場合)

国内の患者さんで1人以上の適合ドナーが見つかる確率は9割以上。しかし実際に移植を受けられる患者さんは6割未満。この開きは、患者さんが骨髄バンクを介して移植を受けるまでには約3か月の期間を要することが大きな要因の1つとされています。また、適合ドナーが見つかったとしても、患者さんとのHLA一致度が高い方や都合がつく方とは限らず、確実に提供できる方ばかりではないというドナー側の諸事情も一因と考えられます。

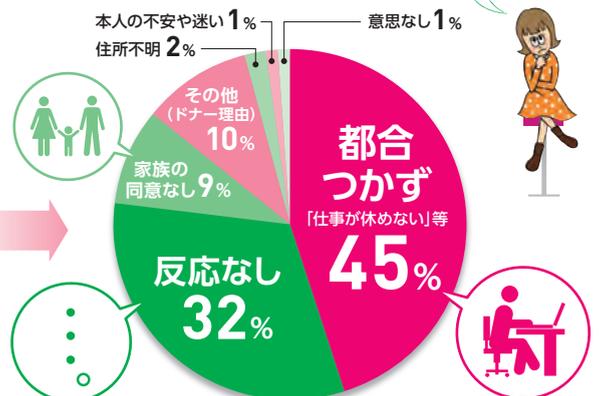
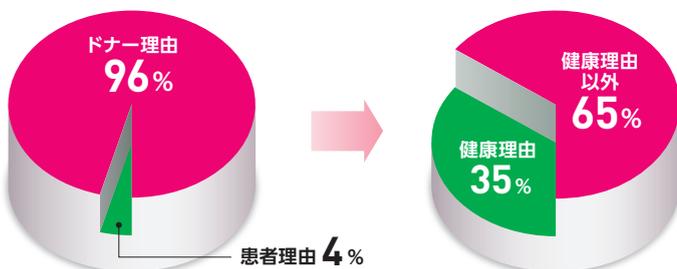


ドナーの応諾率はなぜ下がるの？

2018年度コーディネート開始件数 ▶ 26,331件

ただし初期段階で 16,248件 終了 ▶ 約62%

ドナー登録してから提供の案内がくるまで数十年かかることも。登録した時と状況が変わっていて、提供できない人もいます。



骨髄ドナー やりました!



骨髄ドナー やりました!

水谷 さるころ



水 谷さるころさんは、『30日間世界一周!!』『目指せ! 夫婦ツーオベ育児 ふたりで親になるわけで』など、実体験をもとにしたコミックエッセイで大人気の漫画家。ご自身のドナー体験をマンガで再現。なってみて初めてわかるドナーのあれこれ。ドナー登録している方も、まだ興味のない方も、どうぞお楽しみください。



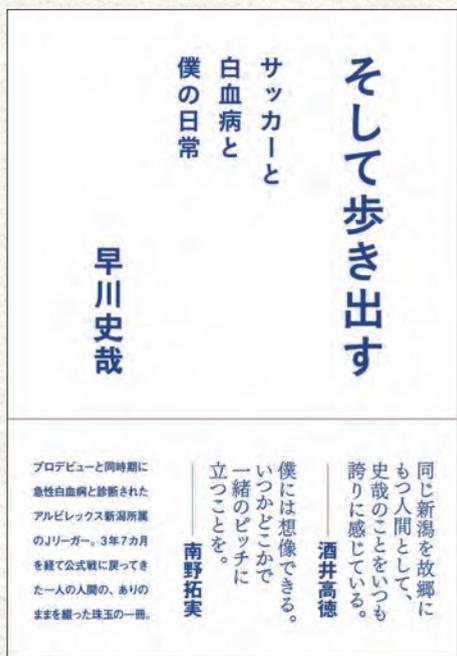
概要 献血好きが昂じて骨髄ドナーをすることになった漫画家・さるころ。

夫も骨髄ドナー経験者という珍しい夫婦のリアルガチな体験談をあますところなくお届けします!爆笑必至の骨髄ドナー体験マンガ!少年画報社アプリマンガDXにてに連載中!(毎月第1金曜、第3金曜更新)↓こちらからお試読みできます。

http://www.shonengahosha.co.jp/tachiyomi/ScrollView_pt0005db2946003aff/

▲自身のマンガにも登場する水谷さるころさん

早川史哉選手の 著書 に注目!



▲2019年10月5日鹿児島ユナイテッドFC戦の早川選手(左)

白 血病と闘い、ピッチに戻ってきたJリーガーの早川史哉選手(アルビレックス新潟)。昨年、バンクニュース53号の巻頭インタビューにご登場いただきました。「サッカーへの情熱と自分を支える温かなファンとクラブの支援があったから」。その言葉の奥に秘められた日々が明かされます。

概要 プロサッカー選手としてJリーグデビューを果たした2016年春、突如、急性白血病と診断された早川史哉選手。骨髄バンクを介して骨髄移植を行い、闘病、リハビリ、トレーニングを続け、2019年10月、ついに3年7か月ぶりに公式戦のピッチでフル出場を遂げました。どのような想いで日常を過ごし、どのような壁にぶつかり、どのように受け入れ、どのように生きてきたのか。もがき、苦しみ、そして歩き出したひとりの人間の、ありのままの生きかたを綴った渾身の自著。

■価格/1,650円(税込) ■判型/四六判 ■発行元/株式会社徳間書店

(お近くの書店、Amazonなどでお求めいただけます) ※本書は、収益金の一部が日本骨髄バンクに寄付されます。

ご寄付のお願い

骨髄バンクの運営は、国庫補助金などの公的資金のほか、患者さんの負担金や皆さまからのご寄付によって成り立っています。当法人へ寄付した場合、税制上の優遇措置が受けられます。皆さまの善意をお寄せください。

寄付金の使途

提供・移植に向けての連絡調整、ドナー登録会の開催、普及啓発用の資料制作等の費用として活かされています。

移植を待つ患者さんのために... 貴重なご寄付で可能になるのは

(たとえば)



3,000円で
パンフレット
200部



1万円で
ポスター
200枚



ドナー登録会
の実施



コーディネーター
による連絡調整

賛助会員入会のお願い

骨髄バンク賛助会員とは、毎年1回、定額(個人1口10,000円、法人1口100,000円)のご寄付を継続して行なっていただく制度です。専用払込取扱票をお送りしますので、当法人募金担当までご連絡ください。

骨髄バンク社会貢献型カードのご案内



クレジットカードによるお支払額の一部が骨髄バンクに寄付される社会貢献型カード(骨髄バンクNICOSVISAカード)。寄付金なしの一般会員と、毎年3,000円を寄付するサポーターカード、毎年1万円を寄付する特別会員があります(初年度年会費無料)。

入会申込書は募金フリーダイヤルへご請求ください。

① 郵便振替

ゆうちょ銀行・郵便局の手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。

② 銀行振込

みずほ銀行間での手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。

③ お電話で募金(クレジットカード)

カードをお手元にご用意のうえ、お電話ください。
お名前・ご住所・電話番号・カード番号・カードの有効期限・ご寄付の金額をお知らせください。

④ インターネットから募金(クレジットカード、楽天銀行、ポイント募金など)

①インターネットクレジットカード募金

※毎月の寄付も選択できます。詳しくは

https://www.jmdp.or.jp/help_us/ または [骨髄バンク募金](#) 検索

②楽天銀行(旧イーバンク銀行)

https://www.jmdp.or.jp/help_us/howto/bank.html

24時間入出金が可能な楽天銀行をご利用いただけます(手数料無料)。なお、事前に口座の開設が必要です。

⑤ 口座自動引き落としによるご寄付

お持ちの金融機関から自動にご寄付の引き落としができます。資料をお送りします。

お問い合わせ・資料請求は募金フリーダイヤルまでお電話ください。
皆さまの温かいご支援をお待ちしています。

募金フリーダイヤル ☎ 0120-377-465 (平日9:00~17:30)

大切な
お知らせです!

ドナー登録者の方へ

ご確認
お忘れなく!



「変更はがき」と「メールによる バンクニュース発行のお知らせ」を終了します

「変更はがき」 の 終了について

これまで住所変更等の際には、バンクニュース同封の「変更はがき」をご利用いただいておりますが、より一層ペーパーレス化を進めることで、迅速で正確な登録情報の反映を図り、コーディネート期間を短縮し、患者さんがよりよい移植を選択できるように、今号より変更はがきを終了させていただくことになりました。今後は、以下のいずれかの方法で変更手続きをしていただきますようご協力のほどお願い申し上げます。

患者さんのために
システムを改善し、コーディネートの
期間を短くします!



住所や電話番号等の変更は下記の方法でお願いします

1 ウェブサイトで

造血幹細胞移植情報サービス



【登録内容変更ページ】

https://trk.bmdc.jrc.or.jp/donor_web/

bmdc

検索

アクセスコードも
必要になります!



1. ログイン画面でアクセスコード、生年月日、メールアドレスを入力し「認証」ボタンを押します。

※アクセスコードは、今号(55号)の宛名台紙および登録確認書等に印字されています。アクセスコードがわからない場合は、②の方法で手続きできます。

2. 1で入力したメールアドレスに届く専用URLにアクセスし、一緒に届くワンタイムパスワードと生年月日を入力してログインします。

3. 変更する項目を入力・確認して手続完了!!

※上記の方法で現在の登録内容も確認できます。

今後は
骨髄バンクのホームページや
公式Twitterでご確認ください!

2 電話で

日本赤十字社ブロック血液センターまでお問い合わせください。
※電話受付は平日(月~金)の9:00~17:00です。

北海道ブロック血液センター 011-613-6683

管轄地域 北海道

東北ブロック血液センター 022-354-7083

管轄地域 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東甲信越ブロック血液センター 03-5534-7534

管轄地域 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県

東海北陸ブロック血液センター 0561-85-4298

管轄地域 富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿ブロック血液センター 072-643-1173

管轄地域 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中四国ブロック血液センター 082-241-1614

管轄地域 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州ブロック血液センター 0942-31-8974

管轄地域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

「メールによるバンクニュース発行のお知らせ」終了について

ドナー登録申込書で、「骨髄バンクニュース発行のメールによるお知らせを希望する」と意思表示された方には、2016年からメールにてバンクニュース発行をお知らせしてきました。しかし、発行のお知らせは日本骨髄バンクのホームページや公式Twitterで随時行っていることから、今号をもってメールによる発行のお知らせを終了させていただきます。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

